

派遣者番号	管R4K11	氏名	西村 宗祐
研究主題 —副主題—	「主体的・対話的で深い学び」を支える教師の働きかけ		
派遣先大学	東京学芸大学 教職大学院	指導担当者	櫻井 眞治
所属	文京区立青柳小学校	所属長	村上 律子

キーワード： 主体的・対話的で深い学び 学習課題 心理的安全性

要旨： 変化の激しい未来を生きる子供たちに求められる資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を支える授業改善が、学校教育に一層求められている。そこで、教師の効果的な働きかけが「主体的・対話的で深い学び」を支え、学びの質を高めるという研究を示し、「変化する社会の中で我が国の学校教育が直面している課題」を解決する一助となることが本研究の目的である。

研究を進めるに当たって、子供が自分の中から見いだした学習課題の追究を支え、心理的安全性を醸成する教師の働きかけが重要であるという仮説を立て、富山県公立小学校と奈良県国立小学校の授業分析を行った。授業分析の結果、学習課題の追究により一人一人が自分の考えを深める姿や、対話を通して自分の考えをよりよい考えに更新する姿が見られた。教師の効果的な働きかけの在り方を意識することが、「主体的・対話的で深い学び」を支えると考えられる。

「主体的・対話的で深い学び」を支える教師の働きかけ

1. 研究の目的

変化の激しい未来を生きる子供たちに求められる資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を支える授業改善が、学校教育に一層求められている。

そこで、教師のどのような「働きかけ」が「主体的・対話的で深い学び」を支えるのかについて明らかにしていく。そして、「変化する社会の中で我が国の学校教育が直面している課題」を解決する一助となることを本研究の目的とする。

2. 研究の方法

文献研究では、学習指導要領や中央教育審議会答申、国立教育政策研究所の報告書等を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」がどのような学びかなのかについて明らかにする。その上で、「主体的・対話的で深い学び」に関わると考えられる教育実践を考察し、教師の効果的な「働きかけ」について仮説を立てる。

仮説の検証段階ではフィールドワークを行い、仮説の検証を行う。同時に、都内公立小学校の授業を考察し、授業の改善案を提案しつつ、研究成果の普及と活用を図っていく。

3. 研究の成果

(1) 調査研究

文献調査を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を実現している子供の姿について整理した概要を述べる。

自分の中から学習課題を見いだす姿

小学校学習指導要領解説総則編には、児童が主体的に自分の生活体験や興味・関心を基に課題を見付けるよう記されている。学習指導要領解説総合的な学習の時間編には、日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付けるよう記されている。それらを踏まえ、本研究では、子供が自分の中から学習課題を見いだしている姿を主体的な学びの姿と考える。

対話を通して考えを更新している姿

国立教育政策研究所の「資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の原理の基準」(2014)では、「ものの見方を、仲間との対話や、専門家の理論に触れることで、段階的に変え、生活経験と学術的・科学的な理論を融合した新しいものの見方に更新する」ことが記されている。(p. 159)。対話を通して自分の考えをよりよいものにしたり、他者の考えと融合して新しい考えを導き出したりする姿を、本研究では対話的な学びの姿と考える。

(2) 研究仮説

子供が自分の中から見いだした学習課題の追究を支える教師の働きかけ

奈良女子大学附属小学校では「教えすぎないように、子どもが自ら学べることを教師が取り上げてしまわない」ことを重視している。そこで、教師の考えを伝達するのではなく、子供の追究を支える教師の働きかけこそが大切であるという仮説を立て、授業の分析を行う。

対話に向け、心理的安全性を醸成する教師の働きかけ

諸富(2022)は、「教室に『心理的安全性』があって、子どもたちは全力でものを考え、全力で対話することができる」と述べている(p. 20)。ここから、心理的安全性を醸成する教師の働きかけが大切であるという仮説を立て、授業の分析を行う。

(3) 仮説の検証と考察

富山県公立小学校 3 年生算数「表やぼうグラフでつたえるーくらし調査隊ー」

友達にアンケートを取り，調査結果を表や棒グラフで表す学習活動である。図1に示すように「正しい情報を伝えたい」という学習課題を A 児が言語化できるよう教師が支えたことで，データの扱い方や調査の意味について考えを深める授業が展開された。

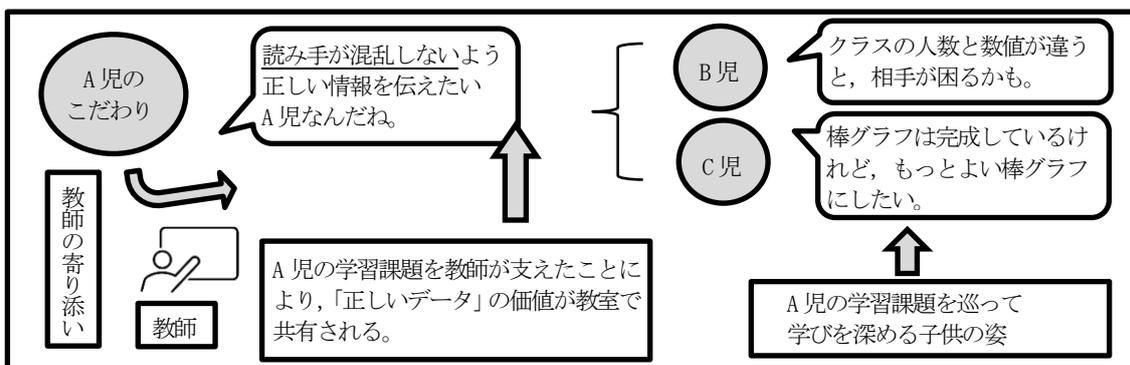


図1 「子供の学びと教師の支え」 出典：筆者作成

奈良県国立小学校 6 年生国語「鳥獣戯画を読む」

鳥獣戯画はなぜ，「国宝であるだけでなく，人類の宝」と言えるのかについて考える学習活動である。図2に示すように「鳥獣戯画は宝物と思えない」という，教科書の内容と対立するような発言も受容され，クラスで活発な対話が展開された。

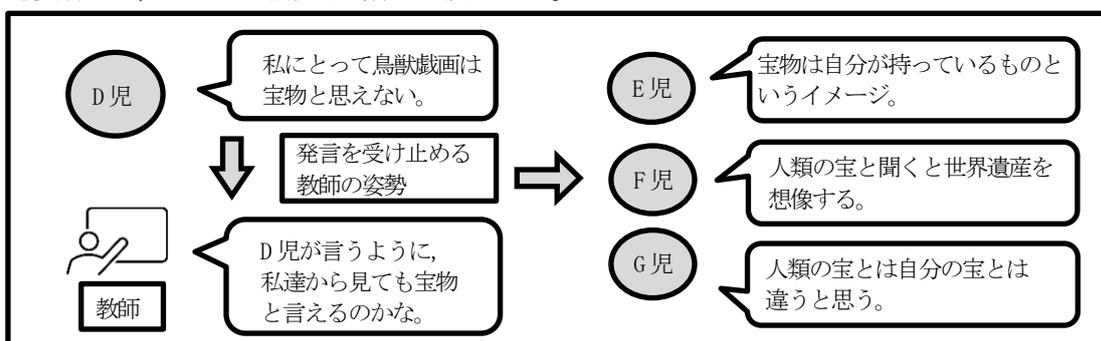


図2 「子供の意見を受容する教師の支え」 出典：筆者作成

4. まとめと課題

学習課題の追究と心理的安全性の面から，「主体的・対話的で深い学び」を支える教師の働きかけを具体的に示した。単元全体を通して研究テーマに迫ることが今後の課題である。

5. 成果の活用法

研究成果を取り入れた学習指導の在り方について現任校で研修を実施し，教員の授業改善の推進に役立てる。また，引き続き研究を深め，研究内容の普及・啓発を行っていく。

6. 主要参考文献

国立教育政策研究所 (2014) 『資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の原理の基準』

奈良女子大学附属小学校学習研究会 (2015) 『自律的に学ぶ子どもを育てる「奈良の学習法」「話す力，書く力，つなぐ力」を育てる』 明治図書

諸富祥彦 (2022) 「『教室の心理的安全性』をつくるのは，ルールとリレーション」『教育研究』第77巻4号筑波大学附属小学校，p.20